

全国ゆびおりのオモト産地

1. はじめに

今、有田地方では21戸の農家がオモト栽培に取り組んでいる。栽培面積は8.3haで、そのうち約80%が広川町で栽培されている。

広川町にオモト栽培が導入されたのは昭和48年頃である。昭和43年・47年のミカン大豊作にともなう価格の暴落により、ミカン生産も量から質へと方向転換していくなか、気流停滞による冷害など気象条件によって高品質ミカンの生産が困難な地域を中心に試作がはじめられた。その後、ミカン改植事業や水田利用再編対策事業ともあいまって徐々に栽培面積を拡大し、昭和58年には約4.5ha、現在は7.0haで県下一の産地となっている。

広川町にはオモトの出荷組合が2つあり、ここでは「広川花き出荷組合」について紹介する。



2. 取り組みの現況

広川花き出荷組合は5戸の農家からなり、栽培面積は約3.5haである。

栽培は10a当たり10,000～15,000株を約80cmの畦に2条で植付け、5～6年の周期で改植更新する。品種は葉取り用に白覆輪入りの「都の城」実取り用に「宗石」が主に栽培されている。強光線下では株が弱り、葉色が黄化

するため、高さ2m程度で遮光率60～70%の寒冷紗を用いて遮光し濃緑色の艶を出させる。品質は葉の長さや色つやにより決定されるため、病虫害の防除が重要なポイントとなり、新芽伸長期のスリップス、梅雨時のナメクジ・赤星病の防除が特に重要視される。

販売については京阪神方面を中心に約15市場へ出荷しており、5戸の生産者が全員で収穫・選別を行っている。出荷数量は年間約2千ケース(1ケース:葉200枚入り)である。階級はL, M, Sの3階級ありLが約70%を占める。

3. 今後の方向

お正月の生け花用として出荷されるため収穫時期が11月下旬～12月に集中することや経営規模の拡大にしたいが、ミカンとの複合経営が困難となっている。また、オモト栽培は収穫時期と薬剤散布以外はあまり労力がかからないことから、レザーファンやシュロ竹を取り入れての花き専作経営へと移行しつつある。

組合の中には、鉢物として出荷されている方もおり、栽培上特殊な方法で付加価値(鮮明な斑入り)をつけたり販売チャネルの開拓など研究熱心で今後がおおいに期待される。

(有田地域農業改良普及センター)



編集後記

平成の大飢饉が起こらなかったのが不思議な程、2年続きで大きな異変がありました。今の時代だからこそこれだけの被害と騒ぎで済んだのではないかと有難く思う反面、環境破壊を続け発展し続ける今の社会を恨めしく思います。今年こそ良き年でありますよう。(K. K)

和歌山県暖地園芸センターニュース No.5

平成7年1月20日発行

編集・発行 和歌山県暖地園芸センター

〒644 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

電話0738-23-4005

FAX0738-22-6903